

# JIA 長野県クラブ 41

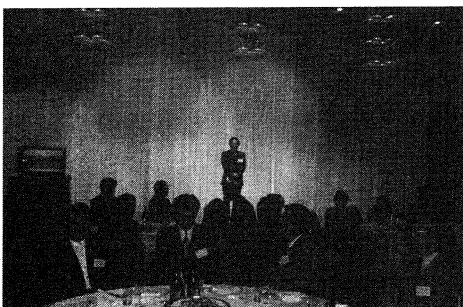
社団法人 日本建築家協会

2000. 3. 1



◀あすなる建築展（松本）

▼あすなる建築展（伊那）



「愛と情熱の家づくり」  
出版記念パーティー



## 地方経営時代のまちづくり

副会長 上村保弘

21世紀を目前に控えたこの2000年は、まちづくりの様々な局面において過渡期の年であると言えます。一昨年のNPO法や中心市街地整備改善活性化法、昨年11月のPFI推進法、そして今年4月施行予定の地方分権一括法など行政改革に係わる重要な政策が次々に公布・施行されています。

国の赤字国債発行額はすでに600兆円をこえており国の台所はまさに火の車というのが実状です。先に挙げたような様々な政策は地方都市市街地の空洞化を蘇生させようという直接的な目的はあるものの、このような経済情勢を踏まえると、これらの政策はさらに重要な使命を帯びていると言えるのではないのでしょうか。

結論的に言うと、「地方経営の時代」といわれてきた社会状況に対して警鐘が鳴らされているのだということです。地方経営の時代という方向性はすでに地方分権一括法の前進である地方分権推進法が成立した1995年より以前から議論されていたわけですが、バブル経済が崩壊したことによって膨大に膨らむ赤字国債への対策などから次第に背水の陣的状况になってきて、国ばかりでなく

地方自治体も自身の問題として真剣にこの言葉の内容や先行きを考えなくてはならない状況下に置かれつつあります。

国は中心市街地整備改善活性化法における推進機構者（いわゆるTMO）に対して公共公益事業を行う権限を与えています。従来の硬直化した枠組にしばられた行政機構からはまったく考えられないほどの柔軟な仕組みが設けられ、積極的に民間活力導入を推進するPFIの手法も法律的な正当性を与えられました。

このように法律面での整備が整ってきているのですから、私たちがこれから行っていかなければならない課題はまちづくりという専門的な視点から、官民一体になった「おらがまち」のまちづくりを実現していくことにあると言えます。そのための具体的手法や実現可能な組織づくりをどうすべきかについて勉強していくことが急務なのではないのでしょうか。

NPO = Non-Profit-Organization 民間非営利組織

PFI = Private-Finance-Initiative 民間活力主導

TMO = Town-Management-Organization タウンマネージメント機関



## 「愛と情熱の家づくり」 発刊に当たって

会員委員長 松下重雄  
(有)みすゞ設計

(仮称)「建築家カタログ」が「愛と情熱の家づくり」  
として99年12月29日にやっと発刊できました。

JIA長野県クラブでは「建築家」の職能をどう社会  
に伝えていったら良いか?あるいは地域社会に向かって  
私たちは一体なにができるのか?といったテーマを模索  
してきました。「文化講演会」「学生卒業設計コンクール」  
「JIAあすなろ建築展」がその一貫ですが、一般社会  
との距離が縮まったとはまだ言えない状態です。

住宅に関するトラブルが社会問題化する昨今、10年瑕  
疵保証、性能表示制度などの法整備は進みつつあります。  
しかし、家を建てたいと願う一般消費者にとって耐久性・  
安全性ばかりでなく「良い住まい」とは?「新しいライ  
フスタイル」とは?またそれらはどうしたらできるの  
か?といった家づくりの心構えとも言える良質な情報が  
得られる環境が満たされているとは言えません。県内にも  
住まいづくりに情熱を傾けてコツコツと取り組んでいる  
建築家がいるのに、身近に気軽に相談できる人がいな  
いと思っている人が多いのが現状です。

このもどかしさを解消するためにも建築家カタログの  
必要性が叫ばれ、95年夏に特別委員会(倉橋委員長・久  
保田副委員長)が検討を始めました。当初は全会員に呼  
びかけましたが、有志での取組とせざるを得ませんでした。  
骨子がまとまり98年4月からは特別委員会が会員委  
員会内に移され実質的な討議が積み重ねられました。ど  
ういった本をつくるべきか?編集から販売まで誰に依頼  
するかといった点に大変な時間を要しました。良い本を  
つくりたいという情熱は衰えず、各自の負担も増額に次ぐ  
増額でしたが、参加者の結束は最後までゆるぎませんで  
した。それも坂田会長以下賛助会メンバーの皆様の物心  
両面の励ましに支えられたからに他なりません。

こうして、社会と私たちを結ぶための道具立てが一つ  
増えました。これからは一層住まいづくり、まちづくり  
を通じて私たちの仕事や役割を知ってもらって地域に貢  
献していきたいと思えます。発刊と同時に続編への夢が  
語られ始めています。今回参加できなかった方々も次回  
是非一緒に取り組みましょう。

本づくりが仲間づくりということで当委員会が担当し  
てきましたが、会員相互、賛助会員とのコミュニケーション  
も良い関係を構築できたと信じています。最後に編  
集者として携わって下さった「文屋」の木下さん、「オ  
フィスエム」の寺島さんに心からお礼申し上げます。



## 中国(北京)を 旅行して感じたこと

小林克己  
(株)北沢建築研究所

先日、中国北京に旅行する機会があった。北京に関す  
る予備知識が全くない状態での旅行だったので見るもの  
聞くものすべてが新鮮であった。現地ツアーバスにより  
午後10時(時差:日本時間-1時間)にホテル到着。

ホテル到着後、旅行の無事を祈念するために近くの中  
華料理店にて乾杯!!しめて105元(1人当り約300円)  
で食事ができてしまったことにみんな唾然!日本の約10  
分の1の物価であることを認識させられた。

バスの車窓より街の風景を見ながらガイドさんの説明  
を聞く。それによると北京は130万人都市、マイカーの  
登録台数は約280万台。最近自営業者が多くなり特に20  
~40代の人の収入がかなりの勢いで伸びているので貧富  
の差が激しいとのこと。50代から上の人は経済急成長に  
ついていけないらしい。

中国は自転車だらけというイメージで出かけたが、車  
の渋滞やマナーの悪さといった目の前の現実に圧倒され  
てしまった。

中国の労働者の定年年齢は、肉体労働者は女40才・男  
45才、一般労働者は女45才・男50才。学者など頭脳労働  
者には定年がないので若者及び学生は真剣に勉強してい  
るとのこと。「実力主義」で自分の将来は自分で勝ち取る  
という中国変革のエネルギーがこの街から感じとられた。

中国変革のもう一つの景色として、高度成長の様子を  
伺わせる近代マンションビル建築と古びたレンガづくり  
の低層住居の混在がある。個人的にはレンガづくりの住  
宅は味があっていいと思う。土を焼いてレンガをつくり  
壁とし、瓦を焼いて屋根を作る。現在問題となっている  
地球環境破壊という視点で、現在の工法と比べれば非常  
に利にかなった工法であると思われる。まさに「温故知  
新」である。また、中国の国土はすべて所有権が国にあ  
るので建物を建てた場合70年の定期借地権が発生する  
とのこと。

最後に北京のシンボル、天壇公園。地を表わす四角い  
城壁に囲まれた中心に天を表わす円形の建物がある。皇  
帝が円の中心に御座して天と対話したとのこと。敷き詰  
められた素焼きの陶板は円の中心に対して求心的に張ら  
れている。当然ながら一枚一枚すべて寸法が違う。現代  
でも大変な仕事であることが伺えた。私たちは時として  
アールを多用したくなることがある。今までは理由を問  
われると「感性」という言葉でしか表現できなかった自  
分に一つの回答を得た気がする。



## 唐松のこと

山口 康 憲  
(株)アーバー建築事務所

少々古い話になりますが、1997年の10月に、竣工したばかりの川上村林業総合センターを見学する機会がありました。当日はJIAのあすなる見学会もあったと記憶していますが、私が参加したのは県の林務部が主催したもので設計者を交えた見学会と座談会でした。唐松材の振興に尽力されている川上村長の肝煎りで建設された唐松をふんだんに使った建物という触込みで、建築への純粋な期待と同時に一流建築家の唐松の使い方にも興味がありました。設計者の飯田善彦氏自身による案内の後、設計依頼の経緯から、それをどう設計に反映させていったかという率直で丁寧な説明があり感銘を受けました。唐松のことをよく勉強されているし、設計手法の説明にいたっては、あまりのリアルさに驚いたほどでした。ただし、ここで使用された唐松は佐久地方でも特に選りすぐった最良のもので、間伐材の新たな用途の開発と需要の拡大という唐松が直面する大きな課題には答えておらず、その点では少々不満の残るものでした。ご存知のように唐松の間伐材には捻れの問題があり、従来は土木の仮設材が主な用途でしたが、この15年位の間人工乾燥、難燃処理技術が確立され、主として建築用羽目板や集成材として生産されるようになりました。最近では3寸5分角の柱材も人工乾燥が可能なのですが、私自身はこのように多くの時間とエネルギーの消費を伴う加工技術には少々疑問を感じています。価格が高すぎるし、膨大なストックを考えれば、需要の拡大の見込める合板や圧縮ボード類の方が適していると考えているからです。

このような認識で見学会に臨んだわけですが、唐松の抱える課題は所詮地元の我々が考えねばならないことと勝手に自分で納得したつもりで、その後、その件に関して努力をしたわけでもなく、日々の仕事に追われる2年間を過ごしました。

そんなこともすでに忘れてしまっていた昨年12月に、「ディテール143号」に掲載されていた飯田氏の新作を見つけました。それは信州産唐松の需要拡大をねらったという意欲的な試みでした。私はあの席で自分の意見を述べてはいませんが、氏は唐松の本当の問題点を把握していたに違いないと確信させる内容の作品でした。

このことから自分がいかに状況に流された怠惰な日々を過ごしていたかを痛感し、とにかく行動を起こすべく啓示を受けました。そして強い信念で道を切開くことと、それを維持することの大切さを教えられました。



## 賛助会員からみる住宅新法

中川 晃 博  
炭平コーポレーション(株)

住宅品質確保促進法が4月より施行される予定であり、まさに住宅産業ビックバンといえる。瑕疵10年保証と住宅性能表示に集約されるが、21世紀を目前に本当の意味で住宅の質が問われる時代に突入した。

資材(施工共)供給を担っている賛助会員の視点で性能表示9項目を捉えてみると、従来通りの資材選定で対応できる項目と設計・施工までを考慮して資材選定しなければならない項目に大別される。

火災安全・空気環境・音環境性能については現状の品質基準で資材選定・施工方法ともクリアーできる。光視環境・長寿社会対応・維持管理容易性能については一概に資材選定だけでなく、設計段階から性能を重視しなければならない。また、温熱環境・構造・耐久性能については施工方法が重要となる。

従来はどちらかというと、価格・デザイン・機能面を主体に供給提案してきた。これからは新たに問われる住宅性能時代に要求される適格な資材、工法を念頭に、正会員と賛助会員の更なる連携、一層の協業関係を強めて高品質の住まいづくりができればと感じている。



## 建設業界に思う

岩 田 昇  
松田産業(株)

2000年を迎え、建設関係各位におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、この業界は年が明けても光の見えない大変厳しい状況になっています。全国で建設業に携わる会社は56万社とも60万社とも言われており、あまり減少していません。これに対して市場はバブル時期の半分の6兆8千億円位と言われます。

こうした中、金融業界を中心に世界規模で変革、編成が進んでいます。しかし、建設業界では生き残りを掛けた再編成のおこる気配はあまり感じられません。経済の明るい兆しが見えつつあると言うものの、全ての会社が生き残れるとは思えません。リストラにも限界があります。超安値時代、各企業体力勝負になっています。

今、経済の活力は情報、環境、高齢化と言われ、この分野に少しでも早く移行することが生き残りの条件と考えます。新しい発想と時代を見る先見性が必要です。世の中のニーズに答える製品及び工事の提供に本気で取り組むことで生き残っていききたいと思います。

## クラブインサイド

### 第1回事業委員会

片倉 隆幸

12月16日開催。第8回文化講演会の講師を平倉直子氏に依頼することに決定。また学生卒業設計コンクールは、長野美術専門学校造形科建築デザインコース・国際コンピュータビジネス専門学校建築CAD科が新参加校となり、活発なコンクールとなりそうである。

### 会員委員会—あすなる建築展打合せ会議

松下 重雄

1月8日ルートイン松本インターにて開催。あすなる建築展について細部打合せ。1月27日伊那からスタートし3月7日飯田でゴール。DM発送、看板作成、参加者募集、会場間の受渡し、学生作品の取扱い、賛助会コーナー、「愛と情熱の家づくり」紹介等について検討。

### 第1回総務委員会

関 邦 則

1月25日メルパルク長野にて開催。役員改選のため選定議員の投票結果を確認。選定議員は新井典夫・新井優・片倉・川上・久保・倉橋・須田・御子柴・依田氏の9名（8位が同票だったため1名増）となった。

### 第7回幹事会・新春の集い+「愛と情熱の家づくり」出版記念パーティー

川上 恵一

1月25日メルパルク長野で開催。幹事会では主にあすなる建築展・文化講演会・学生卒業設計コンクール2000・通常総会及び役員改選などが話し合われた。続いて新春の集いが「愛と情熱の家づくり」の出版記念を兼ねて盛大に行われた。出澤会長が「新世紀への抱負の中で職能集団が地域貢献のステップとして情報を発信できた」ことや、「とりわけ賛助会の物心両面の支えが大きかった」ことを報告し、関係者と共に喜びを祝った。二次会では本づくりの苦労話に花が咲いた。

### JIAあすなる建築展

松下 重雄

あすなる巡回展が今年から表題のように改名され、伊那→松本→上田→長野→飯田のコースで1月27日よりスタート。昨年出版された「愛と情熱の家づくり」の紹介販売・賛助会コーナーも新設。JIAメンバーの精魂こめた作品と建築学生たちの卒業設計作品の展示を通して当クラブの地域貢献を推進したいと願うものです。

### 選定議員会

関 邦 則

2月14日ルートイン松本インターにて開催。選定議員8名が出席（欠席新井優）。出澤現会長が支部監査になることが決定していることもあり、会長に松下氏（新任）、副会長に上村氏・高橋氏・関（以上留任）・依田氏（新任）、監査に久保田三代氏（新任）が選出された。また賛助会監査として渡辺氏（留任）が選出された。

## クラブアウトサイド

### 第19・20回地域組織整備委員会 出澤 潔

12月13日、1月20日開催。4名の地域会長を委員会メンバーに加え、全国地域会合同会議と地域会活動について意見交換。鬼頭梓元会長のご出席をお願いし、地域会のあり方・建築家資格問題について討議。次年度の全国地域会合同会議運営体制・地域事業助成費の取り扱い・顕彰制度の具体化について次回継続討議となった。

### 第7・8回支部総務委員会 久保 隆夫

12月15日、1月26日開催。共通議題は「財務問題について」及び「委員会構成について」。前題は会費未納者・退会者への対応策。後題は委員数不足と併せ本会への連動を具体的に検討。今年度にて千原委員長が退任になる。

### 第8回支部選挙管理委員会 須田 考雄

12月16日開催。地域会からの立候補者3名、自由選挙4名の確認をしたが、自由選挙5名分が定数に満たないためBulletin 1月15日発行号にて第2回告示。2月8日立候補届出締切。Bulletin 3月15日発行号にて選挙結果の公表。監査には出澤潔氏を役員会推薦で選出。

### 第5・6回支部業務委員会 関 邦 則

第5回12月21日開催。東京都建築物安全安心推進協議会への対応について検討。委員会活動としてプロポーザルの実態・工事監理の実態の調査を提案した。第6回2月8日開催。安全安心推進計画に伴う中間検査・完了検査の徹底実施についてBulletinに掲載。

### 第9回支部会員委員会

久保田 三代

1月12日開催。入退会審査では、昨年1年間の入会者60名と退会者120名のまとめが提出された。主宰者が退会してもその人数分の補充がない点が特に問題となった。1月19日の新春の集いの進行方法、3月に開催予定の今年2回目の新会員の集いの日程や進行方法についての協議。

#### —新入会員紹介—

事務所会員

(株)アーバー建築事務所

(佐久市)



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則  
発行人 出澤 潔  
発行所 JIA長野県クラブ  
長野市南長野妻科  
426-1  
長野県建築士会館内  
TEL 026 (232) 3897  
FAX 026 (232) 5303  
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。